

平成16 (2004) 年7月25日

第 26 号

世田谷稲門会 一敷夫忠
谷倉澤島司 邦真
田土細寺莊

発行人集
発刊編
事務局 千157-0067
東京都世田谷区喜多見4-33-25
東川村保夫方
TEL/FAX03-3417-7104

世田谷稲門会会報

納涼クルージング

八月二十一日(土)開催

暑い季節になってきたが、本年度も「東京湾ディナークルージング」を八月二十一日(土)に開催することが決定した。今回は着席方式での「フランス正餐(コース料理)」。

開催日 八月二十一日(土)



午後七時出航
船 シンフォニー・モデルナ
(二、六一八トン)

集合 日の出埠頭に午後六時二十分

(JR浜松町駅南口より徒歩十分)

会費 大人 一、〇〇〇円
子供(小学生) 七、〇〇〇円

未就学児 三、五〇〇円
人数 一三〇名

申込み 八月六日までに料金振込みで参加として登録

振込先 郵便局 口座番号 〇〇一〇〇一〇一〇二二四〇

世田谷稲門会事務局

第十三回定時総会

五月二十二日午後五時より「こまばエミナース」で開催された。(九十五名が参加)

第一部総会、第二部講演会は柏良子副会長の司会で進行。総会は会則の規定により土倉享一会長が議長となり議事が進められた。平成十五年度事業・決算・会計監査の各報告

平成十六年度事業計画・予算及び役員改選の議案が提出されそれぞれ承認された。総会終了後、早稲田大学よりの来賓村岡洋一副総長及び岡本宏一校友課長の紹介後、母校創立一二五周年記念事業への二十万円の寄付(目録)が会長から副総長へ手渡された。副総長より謝辞ならびに母校の学内事情を骨子とする近況報

告、岡本校友課長より一二五周年記念事業募金の現状と寄付協力方依頼の挨拶があった。

第二部講演会は平井恒夫氏の講師紹介の後、恵泉女学園大学教授大橋正明氏(昭和五十三・政経卒)の「私のNGO活動」と題する講演があった。



わが国でも盛んになりつつあるNPO/NGO活動についてご本人の活動経験をユーモアをまじえて紹介、国際的には政府に代わって活動する方向にあることなどが紹介された。



講師 大橋正明教授

白寿の内藤氏が乾杯

第三部は会場をダイヤモンド・ルームに移し洋・中の着席スタイルでのバイキングの懇親会が催された。鈴木宏治副会長の司会により進行。

会長の挨拶に続き来賓を代表して目黒稲門会の真仁田勉会長の祝辞があり、本年五月に白寿を迎え矍鑠とした内藤隆福氏(昭六理工)の乾杯発声で開宴。新会員三名の自己紹介、会長より退任役員の功績に対する感謝の辞等をはさみ会は盛り上がった。ファイナーレは岩上健一副会長

のリードで校歌を全員声高らかに斉唱、山口進吾副会長の司会にて九時すぎ散会。



十六年度役員・常任幹事

- 土倉享一(三十四・政経)
- 副会長・幹事長
- 二十三区支部担当
- 鈴木宏治(三十八・商)
- 同・事務局長
- 川村保夫(三十四・商)
- 同・部会統括
- 柏 良子(三十一・政経)
- 同 山口進吾(三十三・政経)
- 同・ブロック会統括
- 岩上健一(三十六・法)
- 幹事 事務局担当
- 江原利次(三十一・商)
- 同・事務局担当
- 森 昌治(三十八・商)
- 同・事務局(会計)
- 横田吉明(三十八・商)

- 同・事務局(会員管理)
- 荒井 清(四十・政経)
- 同・部会担当
- 麻生卓司(三十四・政経)
- 同・部会担当
- 島田 實(四十・法)
- 同・ブロック担当
- 天野孝一郎(四十二・政経)
- 同・広報統括
- 寺島邦夫(三十八・政経)
- 同・広報担当
- 細澤 勲(三十一・政経)
- 同・広報担当
- 荏司真恵(四十三・教育)
- 監査役
- 守屋寧夫(三十五・商)
- 部会代表世話人
- ゴルフ 平井 恒夫
- 麻雀 下谷内 堯
- ボーリング 武藤 哲
- 釣り 柴田 昇
- 食べ歩き 大須賀 肇
- 囲碁・将棋 矢田 廣
- カラオケ 蒲原 信一
- ウォーキング 寺澤 隆夫
- 写真 種谷 鴻成
- スポーツ観戦 山口 進吾
- ダンス 武田 信夫
- ブロック代表世話人
- 西北会 寺島 邦夫
- 千歳会 武藤 哲
- けやき会 天野孝一郎

- キャロット会 守谷 之男
- きぬた会 宮木 甫
- 玉川会 浜田 康夫
- さくら会 矢田 廣
- 退任役員
- 幹事長
- 前原祖彦(二十五・理工)
- 副会長・広報担当
- 大須賀肇(二十六・理工)
- 同・事務局長
- 寺澤隆夫(二十九・商)
- 同・ブロック担当
- 柴田昇(二十九・商)
- 幹事 武藤哲(二十八・法)
- 同 矢田廣(三十四・法)
- 同 下谷内堯(三十七・政経)
- 同 高橋和敏(六十・法)
- 監査役
- 藤井秀彦(二十九・政経)



「再任ごあいさつ」

「継続と発展を目指して」

会長 土倉享一

平成十六年五月二十二日の第十六回総会で、世田谷稲門

会の新役員が承認され、新体制が発足しました。今回の改選に当たっては、役員・常任幹事は会運営の実務担当者として担務を明確にし、事務局をはじめ、広報、ブロック担当、部会活動担当をそれぞれ複数体制としました。従来は、複雑多岐な事務全般が事務局長一身に集中し、過重な負担となっていたところが、ありまして、そこで、事務局は会計を含めた複数の常任幹事によって構成し、協力して処理、運営にあたっていたらこうという趣旨です。

また、役員・常任幹事の選任には、いずれ一定のルールを敷くことを念頭に、各ブロックからの人選を重視しました。かたよらず、広い、有為の方々新たに稲門会運営に加わっていただきたいからです。それが広域圏世田谷の稲門会の基盤を支え、継続と発展につながることを願っています。それぞれに、特色ある会名をつけて発足した七つのブロックの活動は近隣校友の親交を深め、地域社会との親睦、ひいては稲門会、大学とを結びつ強力なネットワークに結びつ

くと考えています。

趣味を通じた部会活動も、まさしく稲門会参加を実感できるものです。年齢を超えた同好の集い、新たな興味への挑戦、さまざまな楽しみを通じて気持ちの安らぎを覚えるのも稲門の絆があればこそでしょう。個別に他稲門会と交流している部会もあれば、囲碁のように東京の二十三区支部全体の行事になりつつあるものもあります。各部会が盛んになり、そして新たな展開があるたびに稲門会活動の裾野はさらに広がっていくと思います。

平成十六年度事業計画

一年次計画

- 五月二十二日(出) 定時総会・講演会・懇親会
- 六月六日(日) 東京二十三区+近県稲門会囲碁大会(世田谷当番) 新学生会館十一時三十分より
- 八月二十一日(出) 納涼会 東京湾ディナークルージング
- 十月二十四日(日) ホーム・カミング・稲門祭(大隈庭園)

- 十一月五日(金) おおむらさきCCオール早稲田ゴルフ大会(当会からも参加)
- 十七年一月二十九日(出) 新年会 こまばエミナース
- 二 会員数の増加
- 本年中に四〇〇名の会員数となるように本年度も務め「近所の同窓生獲得」と「会員による紹介」を従来以上に活発化し、特に若手会員の加入を促進したいので、会員各位の積極的な勧誘を切に願います。

三 地区担当幹事を設ける

昨年度開始したブロック化

を軌道に乗せるため、ブロックの代表

世話人の会を新設し、情報交換や相互刺激の場とする。

四 年会費百%納入について

世田谷稲門会メンバーのご協力で他稲門会にない高率の年会費納入実績となっている。本年度は百%を目指す。

五 大学一二五周年寄付について

本年度も会として二〇万円の寄付を行う。(実績累計八〇万円、目標一二五万円)

六 校友会費の納入について

世田谷在住の校友は一人強、その内校友会費を納入されているのは三十%弱。毎年大学から組織強化費として約四十二万円頂いている

15年度収支実績・16年度収支予算

単位：円

収 入	15年度予算	15年度実績	16年度予算	
前年繰越	1,241,147	1,241,147	1,185,299	
年会費	1,110,000	993,000	1,110,000	@3,000,370名
総会費	700,000	648,000	700,000	
納涼会費	700,000	514,000	700,000	
新年会費	800,000	947,000	800,000	
ア～ウ小計	2,200,000	2,109,000	2,200,000	
組織強化補助金	400,000	418,000	400,000	
雑収入	0	25,000	0	
前受	0	59,000	0	
利息	100	11	10	
収入合計	4,851,247	4,845,158	4,895,309	
支 出				
総会費	700,000	550,908	700,000	
納涼会費	700,000	424,570	700,000	
新年会費	800,000	942,803	800,000	
ア～ウ小計	2,200,000	1,918,281	2,200,000	
総会等予備費	100,000	0	100,000	
総会等講師謝礼	165,000	170,000	165,000	@50,000×3回+車代
総会等小計(1)	2,465,000	2,088,281	2,465,000	
諸経費				
事務用品費	50,000	76,234	80,000	事務局住所変更による
通会通信費	300,000	168,650	300,000	名簿送料増
会報作成費	400,000	390,600	300,000	3回発行(25~27号)
業務委託費	100,000	90,000	100,000	会計・本部・会報業務
部会援助費	40,000	20,000	20,000	新設部会1と想定
部会議費	220,000	198,186	300,000	@2万円×11回+ブロック会議
校友会活動費	200,000	155,212	200,000	他稲門会、模擬店
23区活動費(支部)	50,000		100,000	支部関係幹事会
HPランニング・コスト	60,000	60,000	60,000	@5000×12ヶ月
ブロック会補助費	50,000	39,176	30,000	新規発足時補助(C・Eブロック)
雑費	50,000	73,520	80,000	送金料慶弔費他
125周年寄付	200,000	200,000	200,000	4年目 累計80万円
名簿作成費				15年度計画外に前倒して作成
小計(2)	1,720,000	1,571,578	1,770,000	
支出合計(1+2)	4,185,000	3,659,859	4,235,000	
次期繰越金(3)	766,247	1,185,299	660,309	
支出合計	4,951,247	4,845,158	4,895,309	

(都内で最高額)。これは校友会費の納入割合にリンクして支給されているので更に増額して頂ける様各位のご協力を願います。

『各部会報告』

「ゴルフ部会」

六月四日に山梨県の大月カントリークラブで三十七名(女性五名、七十才以上のグラウンドシニア十一名)が参加して開催。

梅雨の季節にもかかわらず晴天に恵まれ好スコアが続出した。

主な成績は以下の通り。

- 優勝 松浦晋三郎 ネット六五
 - 準優勝 島田 實 六六
 - 三位 齊藤正寛 六九
 - レディース優勝 吉村登喜子
 - Gシニア優勝 白木 茂
 - ベストグロス 森 昌治
- (敬称略)
- 「ゴルフ部会 寺澤隆夫/記」

「ボウリング部会」

当部会は毎月一回、第三または第四日曜日に、世田谷オークラボウルで、渋谷稲門会と合同して開催している。

合同開催を始めて五月で満七年、その間一回の休会もなく継続している。

三月参加者十三名。齋田さ

んが四連続ストライクを含む六ストライクを出して、プロ並の二〇〇点を超える待望の大新記録を樹立したのが庄巻！江口さんも絶妙のコントロールで技能豊かな投球で高得点。

- 二二一点 齋田 裕二
- 一五六点 江口 力
- 一三四点 新井 武
- 四月には八名参加。新井さんがパワフルな投球で健闘。
- 一五五点 新井 力
- 一三七点 武藤 哲
- 一三六点 佐山 順孝
- 五月は九名の参加。今月は何故かレーンの滑りがわるくて皆さん得点が伸びず、談笑しながら楽しい投球。新井さんが三ヶ月連続、安定した投球でベスト三に入ったのはご立派。

- 一四二点 新井 武
 - 一三二点 宮木 甫
 - 一一五点 江口 力
- オークラボウルはレーン数も多く、広々とした快適な環境で、特に夏は避暑地に行つたような別天地。ボウリングは初めての方でも手軽にできるスポーツ、運動不足を解消して健康に良し、ストレスを

「スポーツ観戦部会」

解消して気分爽快、さあ思い切って始めて見ませんか。家族同伴大歓迎、皆さんのご参加お待ちしております。

(武藤 哲/記)

当部会では、年二回の野球観戦会を催しているが、今回は春の早慶野球一回戦の観戦会を五月二十九日(土)神宮球場にて行った。

今回は母校の五連覇ならず、すでに明治の優勝が確定していたが、参加者は会員二十四名、同伴者十一名合計三十五名であった。好天にも恵まれ球場は内外野ともほぼ満員となった。例により特別応援席に陣取り応援部員チアリーダーのリードで学生と一緒の応援を行った。試合は残念ながら二対七で母校の敗戦となったが、慶應にとつては数年ぶり勝利で大いに湧いていた。

試合終了後、例により青山増田屋そば店にて十五名出席のもと祝勝会を残念会に切替え懇親会を催し、午後六時すぎ散会した。

「食べ歩き部会」

次回の観戦会は秋の早慶野球一回戦を予定しております。尚、野球以外の観戦会をお世話し戴ける方、その他良い案等がありましたらご連絡ください。

(山口進吾/記)

四月二十八日(水)十一時三十分より平成十五年第四回例会を開催。参加者二十四名。

今回は国木田独歩著「武蔵野の情景や面影を今も色濃く残す東京郊外でも数少ない植物公園に隣接する調布市深大寺元町の「水神苑」で日本料理会席と深大寺そばを賞味した。新緑萌え出する木立に囲まれ、ひんやりした風が頬を撫でるすばらしい雰囲気の中で会は進行した。初参加会員佐野暢彦・友吉彰両氏の自己紹介の後世話人よりの会務報告や、平成十六年度行事等についての説明があった。

郡山弘文氏の発声により全員元氣よく乾杯、懇親会は開宴。自然のやすらぎと格調ある雰囲気の中庭園の「延命の滝」のせせらぎを眺めつつ各

人吟醸酒の美味と海の幸山の幸の料理に舌つづみを打ちながら懇談は弾み会は最高に盛り上がった。

楽しい歓談の時は過ぎ閉宴の刻となり次回の再開を期して散会。解散後は三々五々天平五年開創の浮岳山深大寺を訪ねたり、東京で最大の都立植物園(神代植物公園)の散策を楽しみ新緑したたる巨樹の森や、つつじやふじの絢爛として咲き誇る園内をめぐり、うららかな春の一日を満喫した。



深大寺 水神苑

今回代表世話人が交替致しましたのでお知らせします。

(旧) 麻生卓司
(新) 大須賀肇

(大須賀肇/記)

「釣り部会」

当部会は、毎月中旬東伊豆海岸の磯釣り、又は狩野川上流天城山麓の溪流釣り、毎月最終日曜日に船沖釣りを開催している。

四月三日 あじ釣りに磯子根岸丸より出船、初めてのあじ釣りなのに成田氏四十二匹、柴田十九匹。

四月十八日 狩野川上流にて、天然化したにじます三十五糎三匹いわな八匹 柴田。

四月二十五日 地藏堂川にて、さつきます(パールマーク無し、白他)三十五糎 柴田

五月上旬 寺島氏いわな三十五糎を初め八匹を同川で釣る。

五月三十日 きす沖釣り、磯子根岸丸、柴田三十七匹(船竿頭)大内氏三十二匹、初心者の阿辺氏二十四匹、当日天候も良く釣り日和であったが、喰いが今一つ悪かった。

仕事で沖縄に行っている大



「麻雀部会」

麻雀部会報告

当部会は創立五年半の歴史を有し、本年度は、会員相互の親睦と技術のレベルアップを目標に毎月定期的に研鑽をはかっている。

尚、文中、会場は小田急線成城学園駅徒歩一分「麻雀荘だんとつ」、集合時間は十二時三十分。

(一) 三月二十日(土) 第四十二回麻雀大会

お彼岸の中日にもかかわらぶ二十五名の善男善女が参加し腕を競った。今回から風速が倍增する為もあり、従来以上の真剣さで試合が展開した。試合は、ここ暫く鳴かず飛ばずだった木村氏が二位以下をダブルスコアで突き放し、吾部創部以来の一五七点という高得点で楽勝した。

(柴田昇/記)

上位入賞者、優勝 木村滋、準優勝 原涼子、三位 下谷内堯
(二) 三月二十一日(日) 第十一回麻雀を楽しむ会
四名の女性参加者を二名の男性講師がウイメンツーマン

方式で厳しく、且つ優しく、手造り役をテーマに指導した。

(三) 四月十八日(日) 第四十三回麻雀大会

小春日和の一日、二十二名の腕と口自慢が集い、技を競った。前半は蔭山氏が飛ばし楽勝かと思われたが、そうは問屋が卸さず、後半自力で上がってきた吉村、岡部両氏の争いとなり、前半失点の少なかった吉村氏が辛勝した。

上位入賞者 優勝 吉村善智、準優勝 岡部清策、三位 蔭山康夫
(四) 四月十七日(土) 第十二回麻雀楽しむ会

三人の女性参加者を二人の男性講師が役作りをテーマに懇切に指導した。

(五) 五月十五日(土) 第十四回麻雀大会

梅雨の晴れ間をぬって二十一名の男女勝負師が集い、栄光を目指した。試合は三回戦迄フルに実力を発揮し、二位以下に大差をつけ独走していた有利氏の楽勝かと思われたが、最終回ハコテンを喰らいモタモタしている間に最終回トップを自力でもぎ取った出口氏が念願の初優勝を遂げた。

上位入賞者 優勝 出口泰男、準優勝 有利純太郎、三位 吉村善智
(六) 五月十六日(日) 第十三回麻雀を楽しむ会

四名の女性参加者を二名の男性コーチがスピードアップと役作りをテーマに優しく指導した。

(七) 六月二十日(日) 第四十五回麻雀大会

梅雨明けを間近にひかえた晴天の一日、いずれも口と腕が自慢の二十六名が集い、勝負に鎬を削った。試合はこれ迄とうって変わり、僅差の関ぎ合いとなったが前半の貯金を守り切った江口氏が久しぶりの優勝を遂げた。

上位入賞者 優勝 江口力、準優勝 蔭山康男、三位 郡山弘文
(八) 五月十七日(土) 第十四回麻雀を楽しむ会

四名の女性参加者を三名の男性コーチがウイメンツーマン方式で懇切丁寧に役作りを主体に指導した。

(下谷内 堯/記)

「社交ダンス部会」

当部は休会状態で、会員六名は各々のサークルや目黒稲門会と合流して練習中。

社交ダンスにも流行があり女性には自己表現ができるラテン系が好まれているようである。

ラテンは基本のルールを覚えれば、誰でも踊れる。パーティへ行っても困らない。ジルバやサンバならせいぜい五〜六通り、これで全部。あとは組合せを変えるだけで、ルンバやチャチャチャでも十通り前後だから難しいものではない、頭脳肉体共に若さを維持するためには最善のスポーツではないでしょうか。

(武田信夫/記)

「囲碁将棋部会」

第五回稲穂会囲碁大会開催

第五回稲穂会囲碁大会は六月の梅雨の晴れ間を縫って、幹事役である世田谷稲門会囲碁部六名の世話役主導のもと六月六日(日)、早稲田大学新学生



会館の四階に於いて、午前十一時三十分より開催された。参加者は総勢六十四名。二十三区の各稲門会からは、世田谷、杉並、目黒、渋谷、新宿、豊島、中野、練馬、北、中央、板橋の各十一区、及び、我孫子、西東京、東久留米、市川の四市並びに早稲田大学囲碁部の現役の学生諸君である。そのうち世田谷は十二名く参加者の中では最多数であった。

(矢田 廣/記)

った。

試合は個人戦で、ハンデは持ち点制(ポイント)を採用。総勢をあらかじめ設定した点数に基づき、八クラスに分け、四人の総当たりのリーグ戦(三回戦)を行う。対局時間は一人一局 三十五分、対局時間を使用。各クラス的一位、二位、三位、四位同志が決勝トーナメント戦を行い、それぞれ優勝、準優勝、三位、四位を競うものである。試合は和気藹々の雰囲気の内、粛々と進み、各トーナメントが終わり、表彰式を行う。世田谷からは大西さんが優勝、蒲原さん、松江さん、矢田等が入賞。商品の授与、全員で記念写真を撮り終わったのは午後五時を少し回った頃だった。場所を移して二階にて懇親会を開催。まずはビールで乾杯。自己紹介の後、又一杯。酒が入るにつれ、みな饒舌になり、親睦の輪は一段と広がった。

「カラオケ部会」

当部会は、発足後三年経過、部会員は四十四名と成長、去る六月二十五日(土)に第十回例会を開催した。

場所は、拠点である用賀駅前のカラオケボックス「ドレミファ クラブ」参加者は、新人夫妻を含め十八名、個室四部屋を借り切り、楽しい会となった。

先ず、部会最長老の内藤氏(百歳)の乾杯で会はスタート、年長組がナツメロや軍歌を披露すれば若手組はSMPの「世界に一つだけの花」等新曲で対抗、又、夫妻や即席のペアーのデュエットも飛び出す等、にぎやかな歌の競演となった。

当日は、気温も高かったこともあり、フリードリンクの生ビールが大好評、和気あいあいのなか、最後に全員で「星影のワルツ」を熱唱して散会した。

尚、次回は、特別部会として塩原温泉への「カラオケ旅行」(九月二十日(月)〜二十一日(火))を予定している。

ご期待下さい。

(蒲原信一/記)

「ウォーキング部会」

第十七回 久し振りに母校を訪ねて 五月二十四日実施。

五月九日実施予定が雨天の為二回延期になりその為か参加者も少なく(七名)で高田の馬場駅を出発。神田川の面影橋から甘泉園へ裏から入った。そのせいか、隣の水稲荷神社には、「立ち寄った事が無い」という人が多かった。早稲田大学の校内を散策。工事中の校舎や付近のかわりようを興味深くみてまわった。早稲田通りを渡り夏目坂で夏目漱石生誕の地の碑をみる。ほとんどの方が、(へえー、こんな近くに漱石の生家(十一町村の名主)があったのか!)と驚かれた。

そして、十分位あるいて、漱石公園(大正五年他界するまでの居住跡。三四郎・門・それから等を執筆)全員知らなかった。皆さん、在学中は勉学に励んで大学のまわりは、関心無かったようでした。神楽坂を

くだり、小石川後楽園へ。水戸藩主第二代徳川光圀が中国色を取り入れて作られた回遊式庭園を四十分かけて一巡り。

池あり、築山あり、滝あり、樹木、芝生等昔のまま手入れ良く残されてすぐそばに喧騒うずまく東京ドームがあるとは思えません。皆さんも一度訪ねられたら如何ですか。解散後、となりの中華菜館で食べたソバがナカナカでした。おすすぬめ久し振りの母校。変わらないのは、大隈公銅像と大隈講堂ぐらい。校内散策で、それぞれの学生生活を振り返って話しがはずんだ。

何年たつてもやはりなんと云つても早稲田大学。いいウオーキングでした。

今後の予定
七月十一日(日) 新臨海都市を訪ねて
七月二十日(火) 総会 梅丘 美登利

八月 八日(日) お鷹の道に涼を求めて
九月十二日(日) 岩戸川緑道に沿って
十月 十日(日) 北沢・烏山緑道をいく
一緒に歩きませんか レッ

ツ、ウォーキング
世話人 新井 武
〇九〇一八一七三一一三七

「ブロック会報告」

きぬた会

六月十二日(土)に第一回「きぬた会」行事として、「世田谷文学館で池波正太郎展を見る会」を催した。他のブロックに比べて、スタートが遅くなつたが、旧Eブロックが二分割された事情がある。

先に、新Eブロック「きぬた会」としてどのような行事を行なうかについて、三月二十六日(金)に、とりあえず世話人と有志で発足の会「仙川(東宝撮影所)の夜桜と食事の会」を持ち、その席で話し合った。その際、今後の企画としては、(1)会員やその縁故者で、その道の知識人や達人に話を聞く、(2)区内の美術館・博物館、史跡・名勝等を見学する等に加えて、ちよつと気の利いたレストランで、団らんのひとつときを持つことを中心にやっつていこうという話になった。



この方針にしたがつて、第一回の会が池波正太郎展を見てサンマルクで食事という企画になった。「きぬた会」エリアの世田谷稲門会会員(五十名)に、案内と共に今後のブロック会への参加の意向のアンケートを出したところ、回答は三十八通で、出席は十二通・同伴を含む参加十六名となった。アンケートについては、「きぬた会」参加が二十八通、不参加六通、不回答四通。行事の企画は、発足の会で話し合われたことと同じようなことだった。

当日、世田谷文学館に開館の十時に集合し、まず会議室で「池波正太郎展」担当の斎藤主任学芸員から、池波正太郎の人物像や展示品を見るポイント・裏話等の話を聞いた。また、下条忠雄会員旧知の関副館長から挨拶があり、当日午後、直木賞作家で稲門同窓の芦原すなお氏の講演会があるから、時間があればぜひご参加をというところで、実際に食事会の後、文学館に戻り、講演を聞いた会員もいた。その後、展示室へ回り「鬼平犯科帳」「剣客商売」「仕掛人梅安」「真田太平記」等の原稿や取材ノート・イメージ画、映画・TV・舞台の写真や道具、スケッチや料理のレシピ等々について、学芸員から説明を受けた。質問に答えてもらうなど、興味がある人にはとても充実したひとときだった。

続いて、森のレストラン・サンマルクに移つての食事会には、江口力会員の令嬢ともみさん(「ピフォア・アフター」等のTV番組に出演されている)も参加、特に女性参加者に囲まれながら、TV番組の裏話など、おもしろい話を聞くことができた。なお「きぬた会」の第二回行事は九く十月頃を予定しています。(宮木甫/記)

西北会

今年度最初の西北会の集いは「早稲田とデキシード・ジャズ」と題して、六月四日に自由が丘のシヨット・バー「ラ・リュ」で開催した。会員外も含め二十五名が参加。寺島邦夫氏が司会と演奏を担当。

早稲田大学には昭和三十三年に公認されたニューオルリ



ンズ・ジャズ・クラブが今も存在し、OBも四百人以上に達し世界でも類を見ない伝統を誇っている。

このクラブのOB中心で構成された「ナインティ・ウェスト・ジャズバンド」に現役の学生も加わり一九二〇年代のニューオルリンズ・ジャズのライブを楽しんだ。

第一部はジャズを構成するマーチ、ブルース、ラグタイム、教会音楽、葬送曲などを、アカデミック(?)な解説つきで演奏。

第二部では元プロの歌手でもあった加藤礼子氏がバンドをバックに軽快なダンスの振り付けで数十年振りに唄を披露。引き続き、加藤、木下泰之両世話人のリードで「りんごの木の下で」を全員で斉唱、この頃からアルコールも適度に入り会場はいつきに盛り上がった。

「聖者が街にやってくる」を最後に演奏が終了したあと、前原祖彦西北会幹事の来賓の紹介を兼ねた挨拶で終了した。次回は九月開催を予定している。

(横田吉昭/記)

キャロット会

昨年五月、それまで人事だと思っていた世田谷稲門会のブロック活動について、幹事会担当役員の柴田さんからFAX頂き、指名された世話人を中心に六月にキャロットタワー二階の喫茶室「くりつく」に集まったのが始まり。

九月二十日(土)の夜、キャロットタワー三階にある世田谷区文化生活情報センターで第一回の総会を開き、十五名が集まりキャロット会の運営などについて意見交換し、又「キャロット会」の名称もこの時に決まった。

総会での意見で、十一月三十日(日)に、三軒茶屋の寿司割烹「三河屋」で懇親会を開催した。出席者は二十一名(案内状発送五十六名、出席者の内一名は特別参加)で、森世話人の司会、守谷世話人の開会の辞と乾杯の音頭で始めた。

今回に出席者中十三名は第一回総会の折にプロフィールが予め配られていたので、これを元に改めて近況報告を兼ねて自己紹介を始めた。今回



は席も地域的に纏まるように指定席とし、しかもアルコーが入ったので、皆さんそれぞれ大学には〇年居たとか、やつと念願かなって自由な時間が持てると思つたら奥さんから一日中家に居られたら困ると言われたとか、これから本当の意味の趣味を探そうと思つていたりとか、楽しい自己紹介が続いた。紅一点の出席者の花田さんからはシャンソン会への誘いなどもあった。

この日は会員の川井勝義さんのクラスメイトの方が北海道から出てこれられ、飛び入り参加されると言うハプニングもあった。愉快な懇親会が続く中、萩原世話人が二十二万国語で「今晚は、有難う」と挨拶



拶され、冨塚世話人の前奏付きで校歌を斉唱し、「フレイフレー早稲田」「フレイフレー世田谷」のメール、そして全員の写真で懇親会の幕を閉じた。

玉川会

今年度の活動については目下検討中です。(守谷之男/記)

玉川会

六本木「カ・ヴォデュドン」ゲスト五名を含み、最高の盛り上がりであった。

(一) 三月二十二日(祝) 生憎風雨の強い日であったが、野毛二丁目季節料理「しの原」で拡大グルメの会を開催した。出席者十四名結構な佇いの客席と上品な日本酒に酔い山本厚子さんの音頭で童謡を合唱。皆様満足気であった。

(二) 五月十六日(日) 上野毛、清水邸にて、ジャズとお酒を楽しむ会開催。この会は、西北会寺島邦夫氏の御尽力によるものでした。

(三) 五月十六日(日) 当会は昨年六月二十二日にFブロックとして、スタートした経緯もあり七月四日(日)二子玉川「二子鮪」にて総会及グルメの会開催。出席者二十五名。尚当日は鈴木宏治新幹事長に出席をお願いし快諾を得た。

新年会を兼ねて、グルメ、カラオケ、音楽鑑賞部会共同開催。出席者二十二名、港区

玉川会会員は現在四十三名。納涼祭。ホームカミングデイ等で皆様にお目に掛かれるのを楽しみにしております。

(浜田康夫/記)

さくらら会

第一さくらら会（Gブロック）の総会を三月二十一日（日）十二時より桜新町の「ロータスガーデン」に於いて開催。会の名称を募り多数決で「さくらら会」と決め、規約を定め、各部会世話人の方々を決定した。案内は四十二人に出席、参加者は十六名、先約がある等欠席十二名、その他、転出等もあり、残りの住所整備中。なお、出席者を中心に名簿を訂正中。

（矢田廣／記）

新年会開催日決定

恒例の新年会は平成十七年一月二十九日（土）に今年と同じこまばエミナースで開催することが決まった。詳細は次号会報にて紹介し

（会員のひろば）

「人生行路」

前原 祖彦

（前幹事長）

私は平成六年早稲田学報で当会の存在を知り入会しました。以来多くの校友にお会い出来とり分け後輩の方々と部会を通じ楽しく過してきました。私はじめサラリーマンは自営業・芸術家と異なり或る年令や規則によって退職せざるを得ません。其の後運良く再就職される方もいるでしょうが多くは全く別の生活パターンが現実となります。それ故以後どの様な人間関係を持つたらよいかと悩みます。先づ年々縁が薄くなるのは仕事関係の人達です。それにつれ家に籠もっていればうつ病や痴呆。それで第二の人生を聊かでも楽しく過すには趣味（飲酒も含む）を共にする人達との輪を広げることも一案でしょう。それには年中の行事や部会・ブロック会に積極的に参加しお互いが知り合う事

です。私は昨年ブロック会の発足により更に未知の校友とお会いしお蔭様で加齢を感じないで今日迄これました事に感謝して居ります。

お世話になりましたー！！

寺澤隆夫（前副会長・事務局長）

先日の総会で約六年間に亘る世田谷稲門会の役員任期を終えさせて頂きました。

この間未熟な私を支えて下さった会員の皆様、役員の皆様に厚く御礼もうしあげます。思えば長いようで短い期間

でしたが、その間新年会・総会・納涼会等の全体行事に毎回百名を超える会員のご参加をねがえたことも忘れられない思い出です。

幹事会で何回か協議して会員の皆さんに出席してみたいなど興味を感じて頂ける講師の選定や企画・立案したこともありました。

また長らく懸案であった年会費未納の問題も、年四〜五回の督促をすることに依って他稲門会に例をみない高集金率を挙げたことも皆様の協力のお蔭と喜んでおります。

特に思い出すのは、第一回の東京湾ディナークルージング（平成十二年）シーライン社初のエンジントラブルで出航出来なくなり、約三分の一は帰られ、残りの方は停船したままの船内でフランス料理を食べられました。その残務整理で帰られた方には参加費の全額を、食事をされた方半額を郵便為替で返却しました。誰が帰られたかを調べることから始まり大変な手間が掛かりましたが、今となると順調にいったことより反って懐かしい思い出となりました。

今後若返った新役員で色々な発想で更なる発展が期待できるのではないかと大いに期待しております。

柴田 昇
（前副会長）

平成十年十月のホームカミングデーに出席

同期同学部の会「商二九会」の集りの為。商学部玄関前で毎年ふるまわれる菊水（同期高沢君が当時社長）の酒樽を囲んで、旧友と飲んでいた。目の前で世田谷稲門会の会員募集を土倉会長が声をからし

ていたので、釣り部が有る事を確認して早速入会した。しかし入会してわかったが、ほとんど実績が無かったため、年間三十回は釣行しているし、釣りインストラクターの資格をいかし、老後の趣味として最高の釣りの醍醐味を味わってもらおう為、釣り部世話人となった。今は年間二十六回の釣行を予定。二十二名の釣り部員がいる。

平成十四年秋、当会をプロック化する大役を武藤、岩上氏と共に仰せつかり、やっと本年三月に七ブロックが完成し、四月二十九日ブロック会世話人会を開催する事が出来た。母校を同じくするだけで、かくも親しくなれるものかと思ひ、当会の益々の発展の為、新役員の方々のお力を期待します。

「府中校友会」「世田谷稲門会食べ歩き部会（有志）」合同
稲門の集い」
五月八日（土）開催。参加者二十四名。新緑萌え阜月の薫風頬をなでる快晴の一日、東京競馬場（府中）の豪華なメモリアルスタンド（貴賓観覧室）



で昼食会を兼ねた競馬観戦会を行った。今回の集いに世話人として尽力された渡辺八郎氏の司会で進行。

まず府中学校友会小室修一副会長・中村圭吾・浜田明両氏の自己紹介や挨拶があり、つづいて渡辺氏より競馬に関する説明、注意事項等の伝達があった。

大須賀肇世話人の挨拶・乾杯の発声により懇親会は開宴。昼食会後全員の記念撮影を行い、その後各自懇談や競馬観戦などおおいに盛り上がった。

眼下に展開するレースに一喜一憂すると共に、心地よいそよ風・青葉若葉のみずみずしい緑に包まれた多摩丘陵の山並みを望み、都会の喧騒を離れ浩然の気を満喫し十六時すぎ解散。
(大須賀/記)

情報ガイド

びあと提携

〜早大、映画監督育成で〜
情報大手の「びあ」と早稲田大学が、次代の映画監督の育成を目指し提携したことがわかった。

今春、埼玉県に情報通信分野の研究施設を聞いた早大が、びあが発掘した新人を大学院に推薦入学させたり、びあ製作の映画を技術面で援助したりするもので、来春スタートする。

大学の映像分野への進出が盛んになる中、製作や奥行の現場が大学と結びついた産学協同は初めてという。
(六月二十日 朝日新聞)

二〇〇四年夏季商議員会

平成十六年七月三日(土)午後二時より「総合学術情報センター」井深大記念ホール」で開催。

本年は役員改選の年に当たって会長・副会長の互選を行い会長に盛田和昭氏(昭二十二年政経卒)を副会長には出井伸之氏(昭三十五年政経卒)他十六名を選出した。

会長挨拶につづき、白井克彦早大総長より、「この十年間理事として大学の運営面に関ってきたが財政基盤の確立は着実に進められてきた。『知の共創』をテーマに推進している専門職大学院・学部の新設等着々とその成果は実現されて来ている。百二十五周年記念事業はB棟・C棟を着工中で、また大隈講堂改修工事も近々着工予定。一方正門前α・β棟の建設(法科大学院)も緒についた。今後アジア太平洋地域の『人のネットワーク

クづくり』を進めて在校生も含めた交流を深め能力を高めていきたい。

大学の声価は大学自体の内容もさることながら卒業生の社会的貢献が大きな要素を占めている。各位におかれては今後とも大学の運営にお力添えと熱い支援をお願いしたい。」との力強い学事報告を兼ねた挨拶があった。その後、会計報告等があり終了後、「リーガロイヤルホテル早稲田」で盛大な商議員懇親会が行われた。
(大須賀/記)

臨時代議員会開催

六月二十八日(月)十八時より井深大記念ホール
(国際会議場)で開催された。

早大総長の白井克彦校友会会長から大学改革に向けての取り組みが順調に推移している旨の報告と一層の校友の協力要請があったあと新校友会幹事四十八名を選出。代表幹事に選出された小林栄一郎氏より、校友会会費納入率五十%アップ・キャンペーン二十五周年募金活動達成の協力要請があった。

その後、国際会議場三階で懇親会が開催された。

編集後記

●いよいよ夏本番 会員各位のご自愛を祈ります。
幹事の皆様は八月二十一日(土)の納涼ディナー・クルージングに備えて活動中です。

●突然素人三人が広報担当を拝命しました。何もわからないまま、先輩、幹事各位、部会、ブロック会等のお世話、ご協力で発行にまでにたどり着きました。

●今回は新年号。それまでには何か新しいものに挑戦します。ご意見、ご批評をよろしく願います。
(寺島)